

## 課題と基本理念

### <大地の水への畏敬>

地球を循環する水の一部は雨となって虚空蔵山（虚空蔵岳）をはじめとする川棚川東部の山々に降り注ぎ、川棚川に集まり河口に向かって流れていきます。石木ダムは、流域の人々が安全に暮らせるようにこの水を調節し、また、快適に暮らせるように、生活する上で不可欠な水を貯留することを目的としています。ダム周辺整備の基本理念は、人々が「**大地の水への畏敬**」の気持ちを持つことを念頭において設定する必要があります。

### <ふるさとへの愛着>

ダム湖ができることにより、先祖から受け継がれてきたふるさとを失う人々があります。このことから、石木ダムの周辺整備は、「ふるさとへの愛着」、さらに愛着を持った土地から離れる人々の心の「いたみ」にこたえる地域づくりでなければなりません。

### <共同体としての連携>

石木ダムによってダム下流域の治水対策や川棚町の水道用水や農業用水の安定供給が図られるとともに、慢性的な水不足に悩む佐世保市に導水されることは、石木ダムの流域圏が水源地域から佐世保市を含む広がりを持つことを意味しており、この流域圏全体が「共同体」として連携すべき関係にあることに着目しなければなりません。

### <水源地域の自立的・持続的振興。流域全体の持続的発展>

流域全体の持続的発展のためには、ダム貯水池に求められる治水、利水、環境機能が将来にわたって十分発揮されるよう、流域全体に人々の理解と協力を得て、ダム完成後における水源地域の自立的・持続的な振興が図られる必要があります。

## 施策の方向性

### 1. 風土を活かした地域づくり

石木ダムの周辺の自然、文化、産業にわたる風土資産を活かして、人をひきつける個性を磨き、水源地域で生活することの誇りと喜びが感じられる地域づくりを行うために、エコミュージアム的な発想の導入を提案します。また、整備にあたっては管理運営面の検討を優先させながら、施設の規模・内容を検討していくことが重要です。

### 2. 流域共同体づくり

流域共同体づくりの原動力は、主体的に活動する「人」と活動を支える「資金」、さらに、流域共同体づくりに参加する様々な「人」や「資金」を目標に向かって結びつける「流域ネットワーク」です。